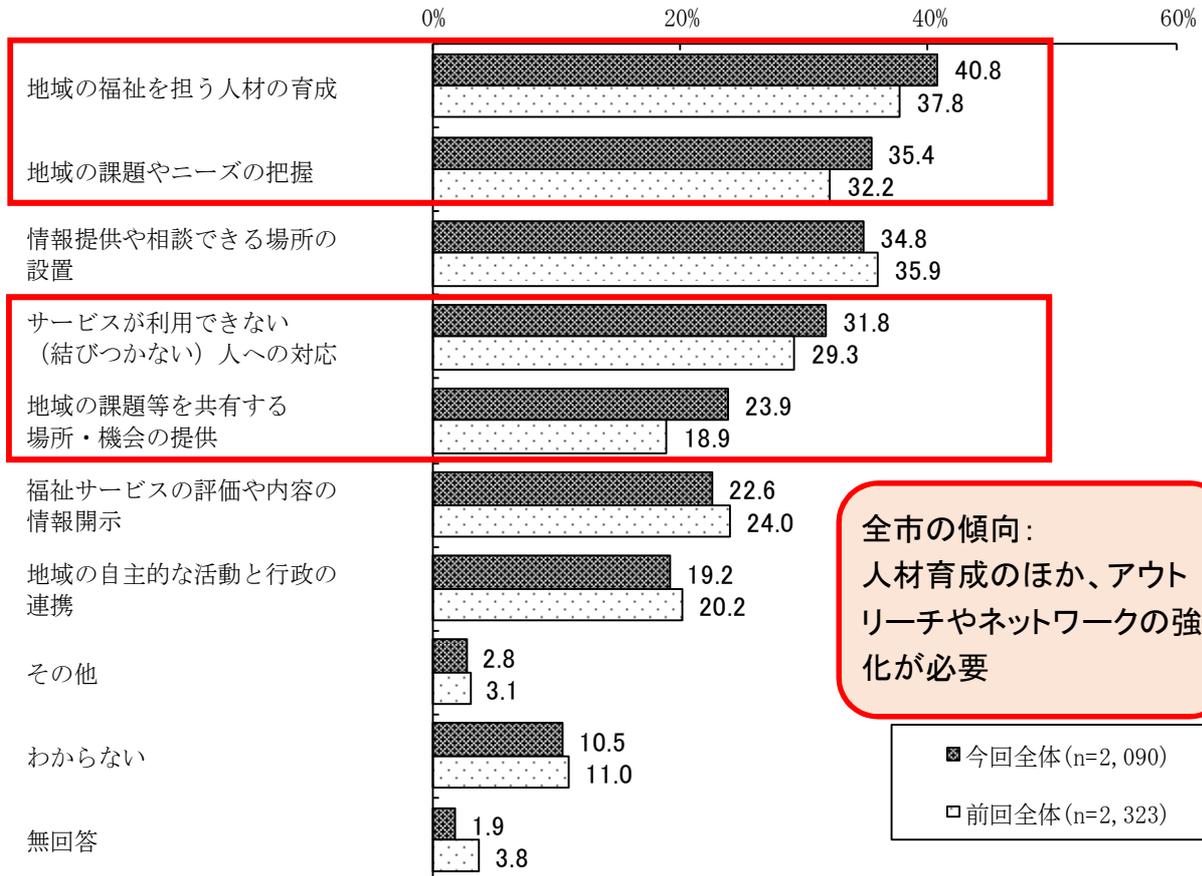


地域福祉に関するアンケート調査結果（抜粋）

全市の回答者数 2,090 人、西蒲区の回答者数 166 人

問 2 3 あなたは、地域の福祉を推進するために新潟市はどのようなことに力を入れるべきと思いますか。（〇はいくつでも）



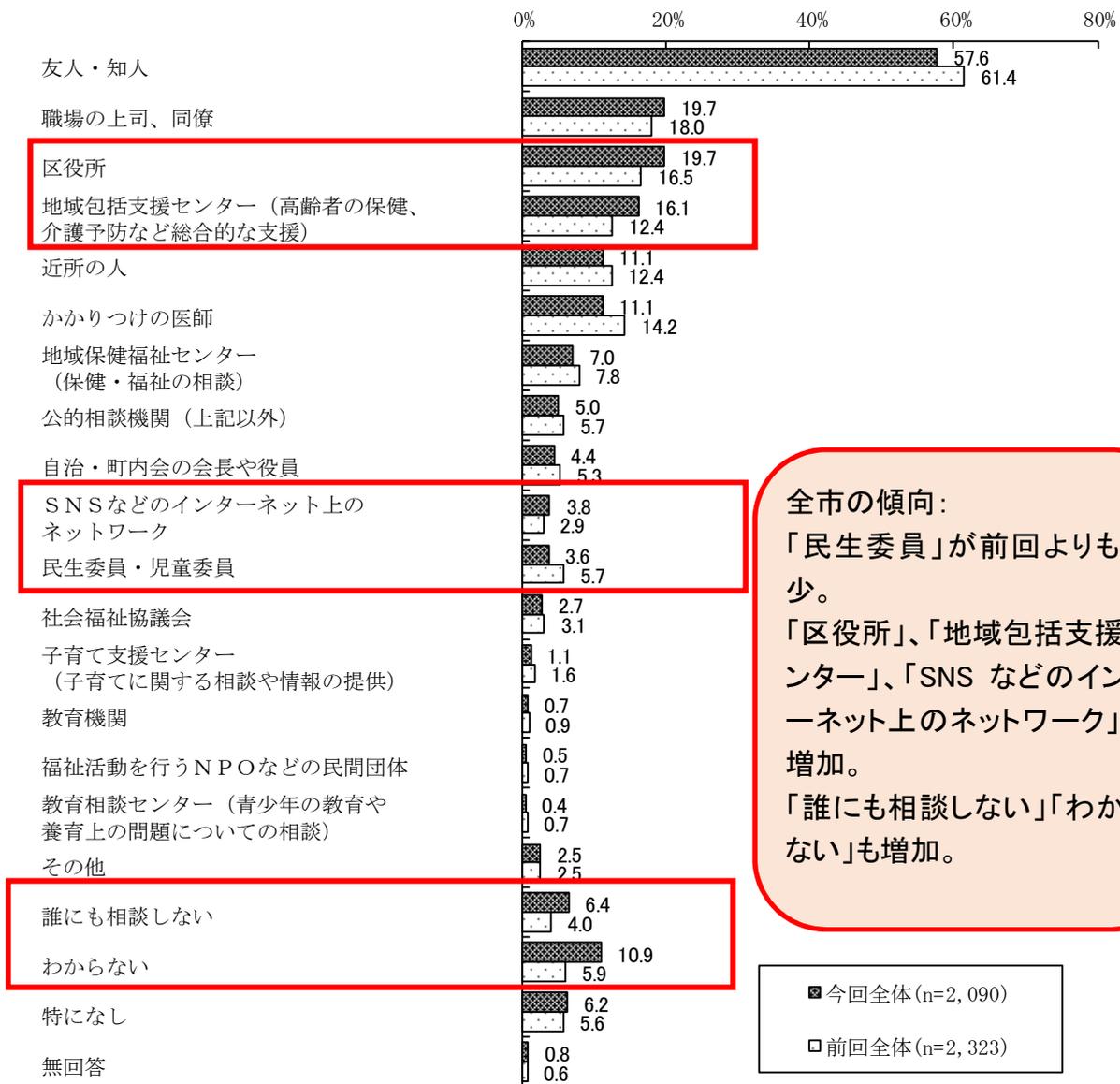
全市の傾向：
人材育成のほか、アウトリーチやネットワークの強化が必要

【区の割合はグラフにありませんが、特徴的なものを区の傾向として示します】

区の傾向：（全市の回答と比較した場合）

- 地域の課題やニーズの把握が 31.9%で △3.5%
= 全市よりも若干把握されている率が高い。
- サービスが利用できない人への対応が 25.6%で △6.2%
= 対応ができていると見る人が若干多い。
- 福祉サービスの評価や内容の情報開示が 25.9%で 3.3%多い
= 評価や情報開示が少ない。

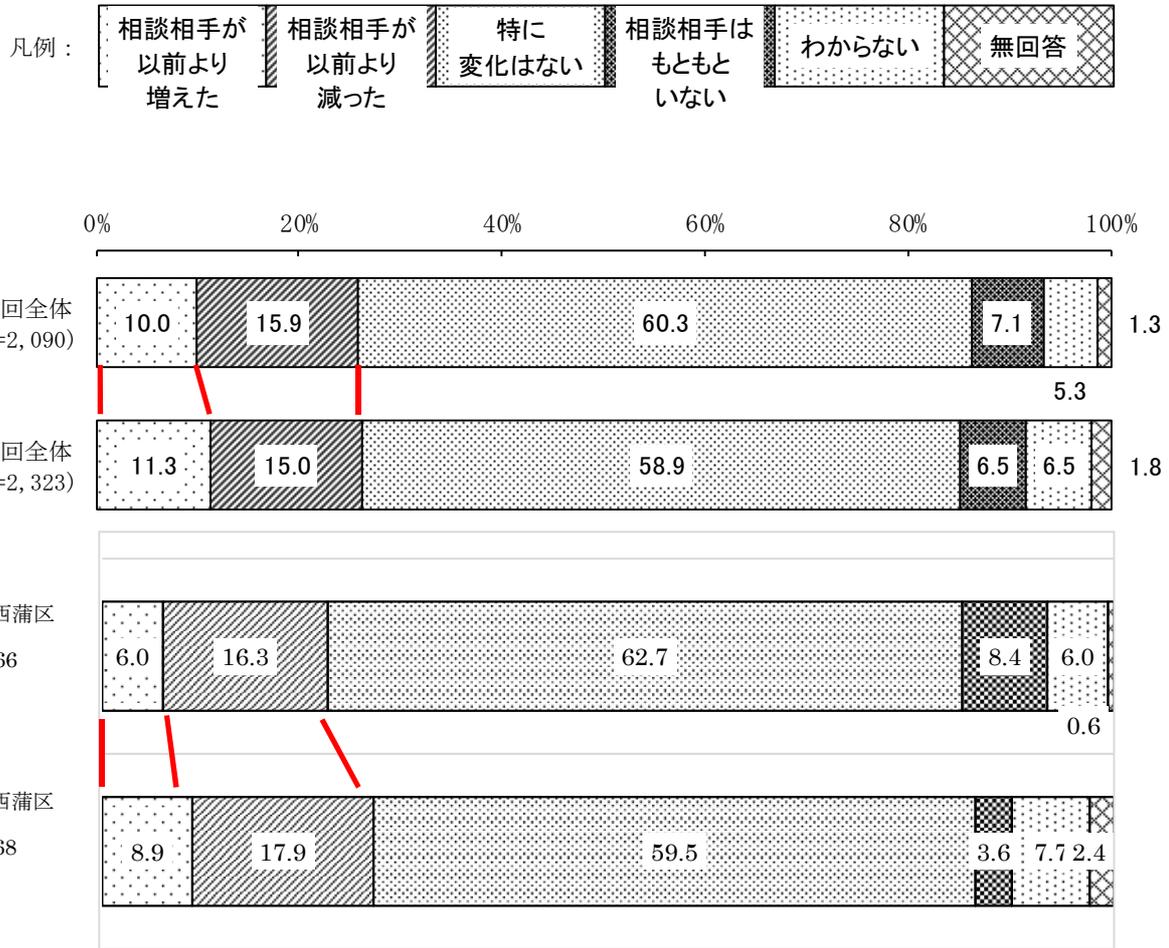
問9 あなたは、普段の暮らしで何か困ったことがおきた場合、「ご家族やご親戚以外」どなたに相談することになるとお考えですか。(〇は3つまで)



全市の傾向：
 「民生委員」が前回よりも減少。
 「区役所」、「地域包括支援センター」、「SNS などのインターネット上のネットワーク」が増加。
 「誰にも相談しない」「わからない」も増加。

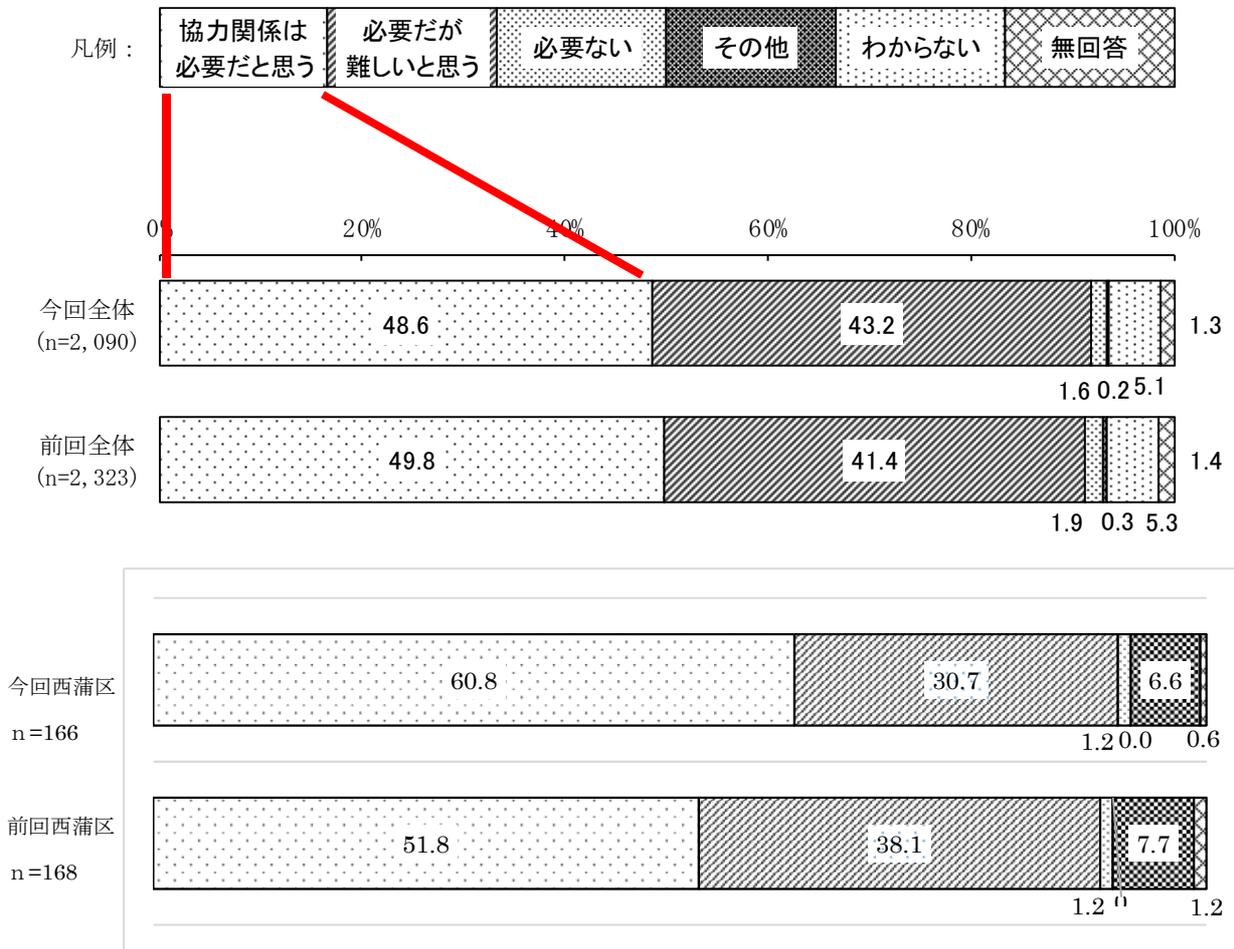
区の傾向：(全市の回答と比較した場合)
 ○職場の上司、同僚が 12.7%で △7%
 ○地域包括支援センターが 18.1%で 2%多い。
 ○近所の人 が 16.9%で 5.8%多い。
 ○地域保健福祉センターが 9.6%で 2.6%多い
 ○社会福祉協議会が 4.8%で 2.1%多い。

問10 あなたは、相談できる相手が、以前と比べて（約5年前と比べて）どのように変化したと感じますか。（〇は1つだけ）



全市の傾向：
相談相手が減少傾向にあることがうかがえる。

問16 あなたは、地域の生活で起こるさまざまな問題に対して、住民相互の自主的な協力関係は必要だと思いますか。(〇は1つだけ)



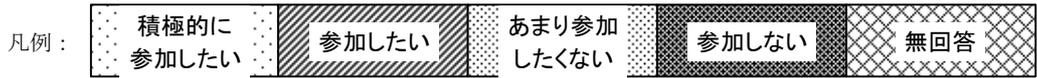
全市の傾向： 5割の人が「協力関係が必要」と思っている

区の傾向：(全市の回答と比較した場合)

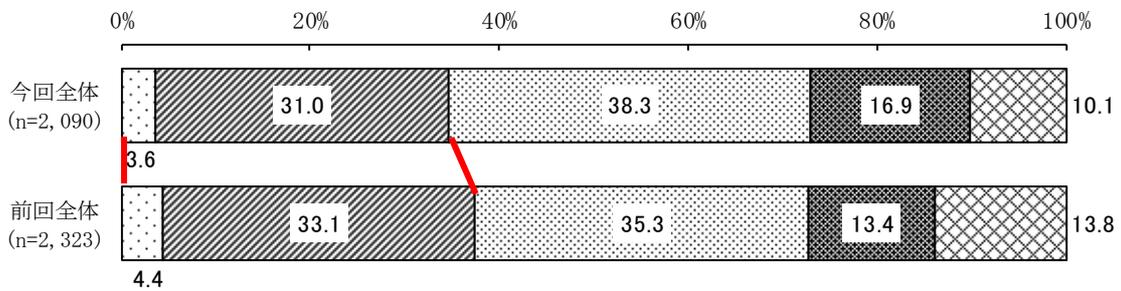
○協力関係が必要だと思う人の割合が60.8%と1割以上多い。

問18 あなたは、地域で行われている以下の活動について機会があれば参加したいですか。それぞれの項目ごとに番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。
(○はそれぞれ1つずつ)

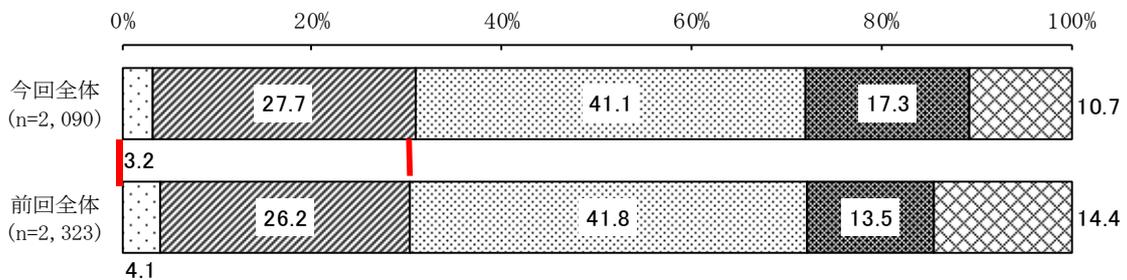
全市の傾向: 約3割の人が「福祉関係の活動に参加したい」と考えている。



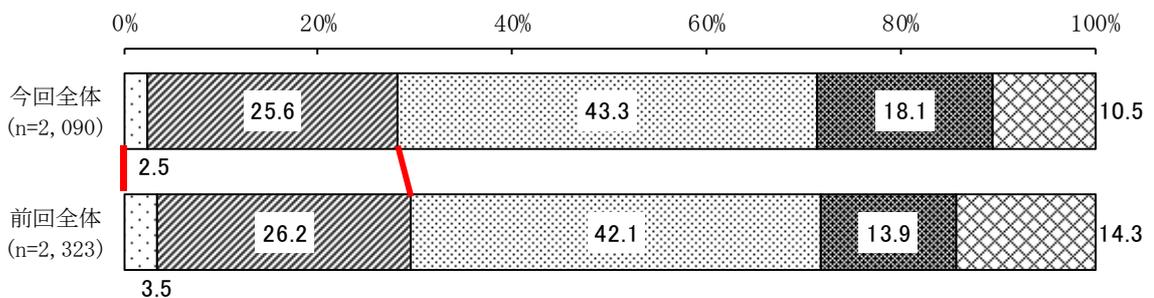
⑩地域で健康づくり事業の実施・協力



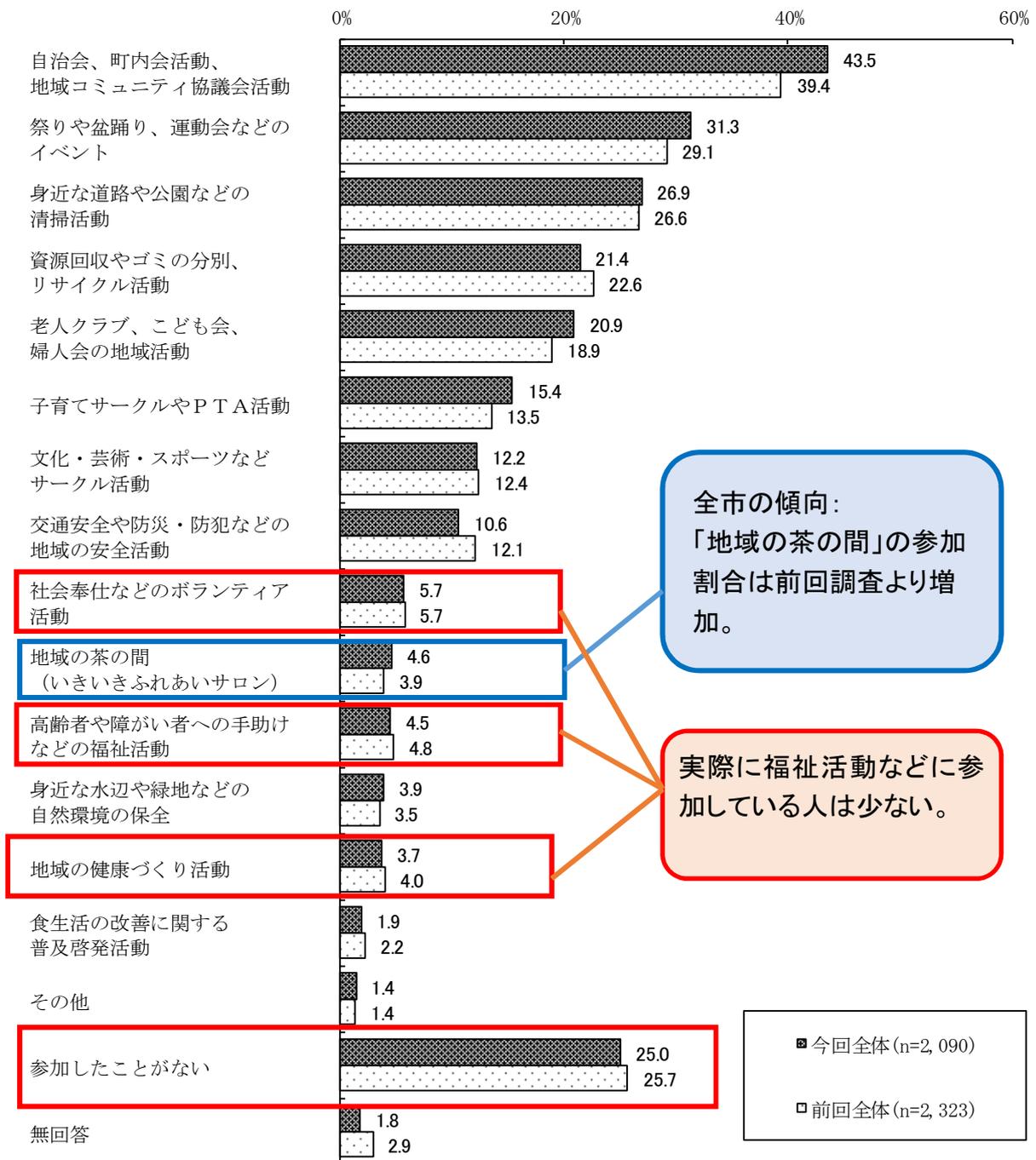
⑬社会奉仕などのボランティア活動



③高齢者や障がい者への手助けなどの福祉活動



問17 あなたは、地域で行われている以下の活動に参加している、または参加したことがありますか。参加している・参加したことがある活動に○をつけてください。
(○はいくつでも)



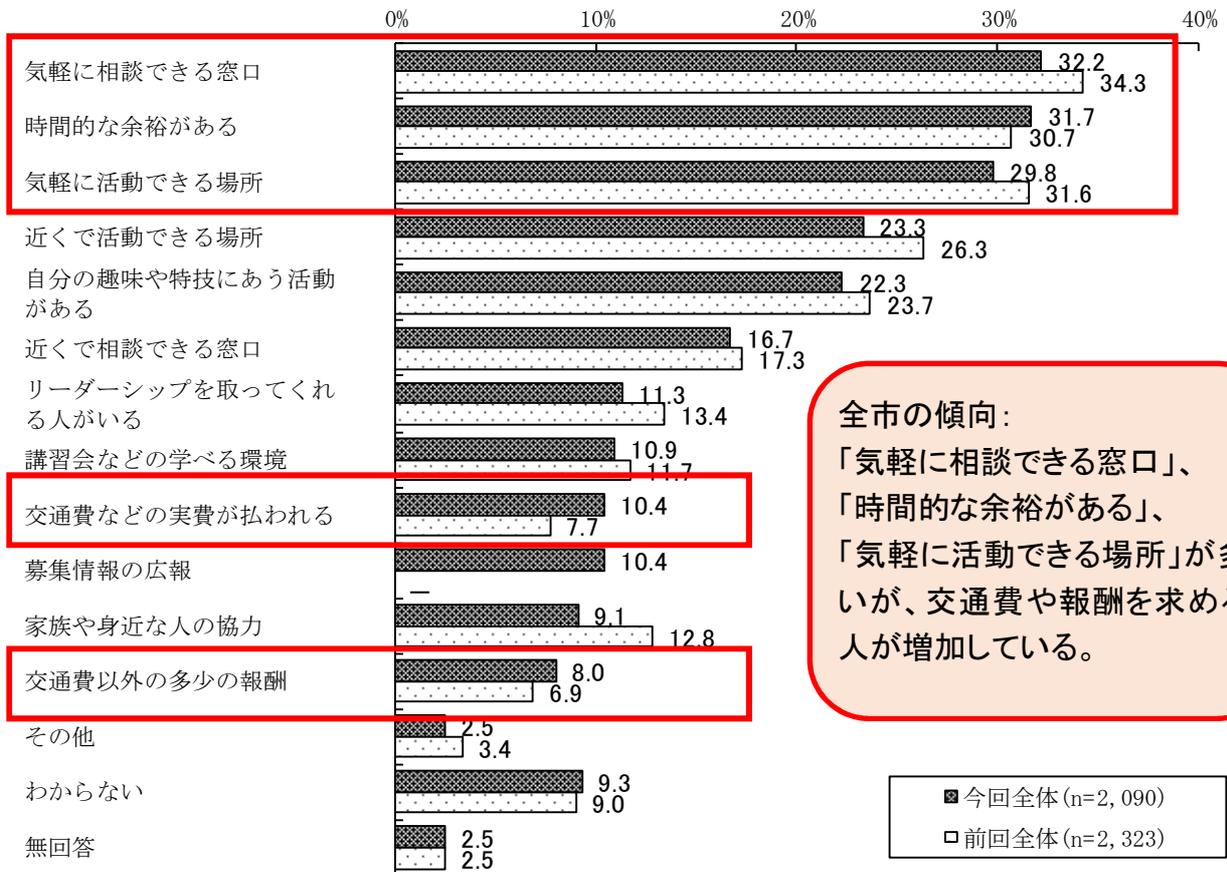
全市の傾向：
「地域の茶の間」の参加割合は前回調査より増加。

実際に福祉活動などに参加している人は少ない。

区の傾向：(全市の回答と比較した場合)

- 身近な道路や公園などの清掃活動が 31.9%で 5%多い
- 老人クラブ、子ども会、婦人会の活動が 29.5%で 8.6%多い
- 高齢者や障がい者への手助けなどの福祉活動が 2.4%で △2.1%

問15 あなたは、ボランティアや保健・福祉に関する地域活動に積極的に参加するために何が必要だと考えますか。(〇は3つまで)

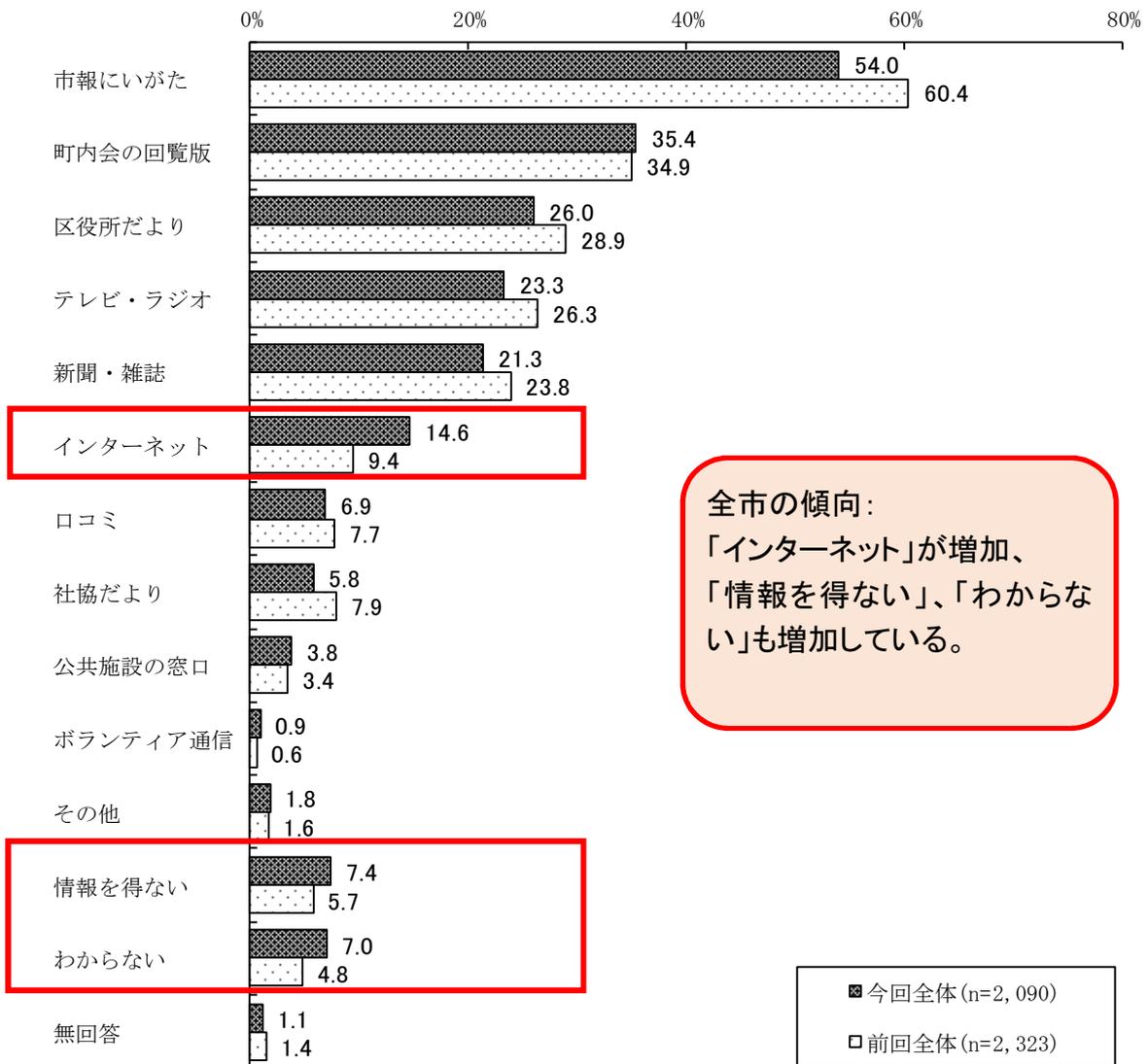


全市の傾向：
 「気軽に相談できる窓口」、
 「時間的な余裕がある」、
 「気軽に活動できる場所」が多いが、
 交通費や報酬を求める人が増加している。

区の傾向：(全市の回答と比較した場合)

- 気軽に相談できる窓口が34.9%で 2.7%多い。= 西蒲区は窓口が少ない
- 時間的余裕があるが26.5%で △5.2% = 全市よも若干時間的余裕がある
- 気軽に活動できる場所が27.3%で △2.5% = 場所はある
- 交通費などの実費が支払われるが12.7%で 2.3%多い
- 家族や身近な人の協力が4.8%で △4.3% = 家族等の協力が得られている

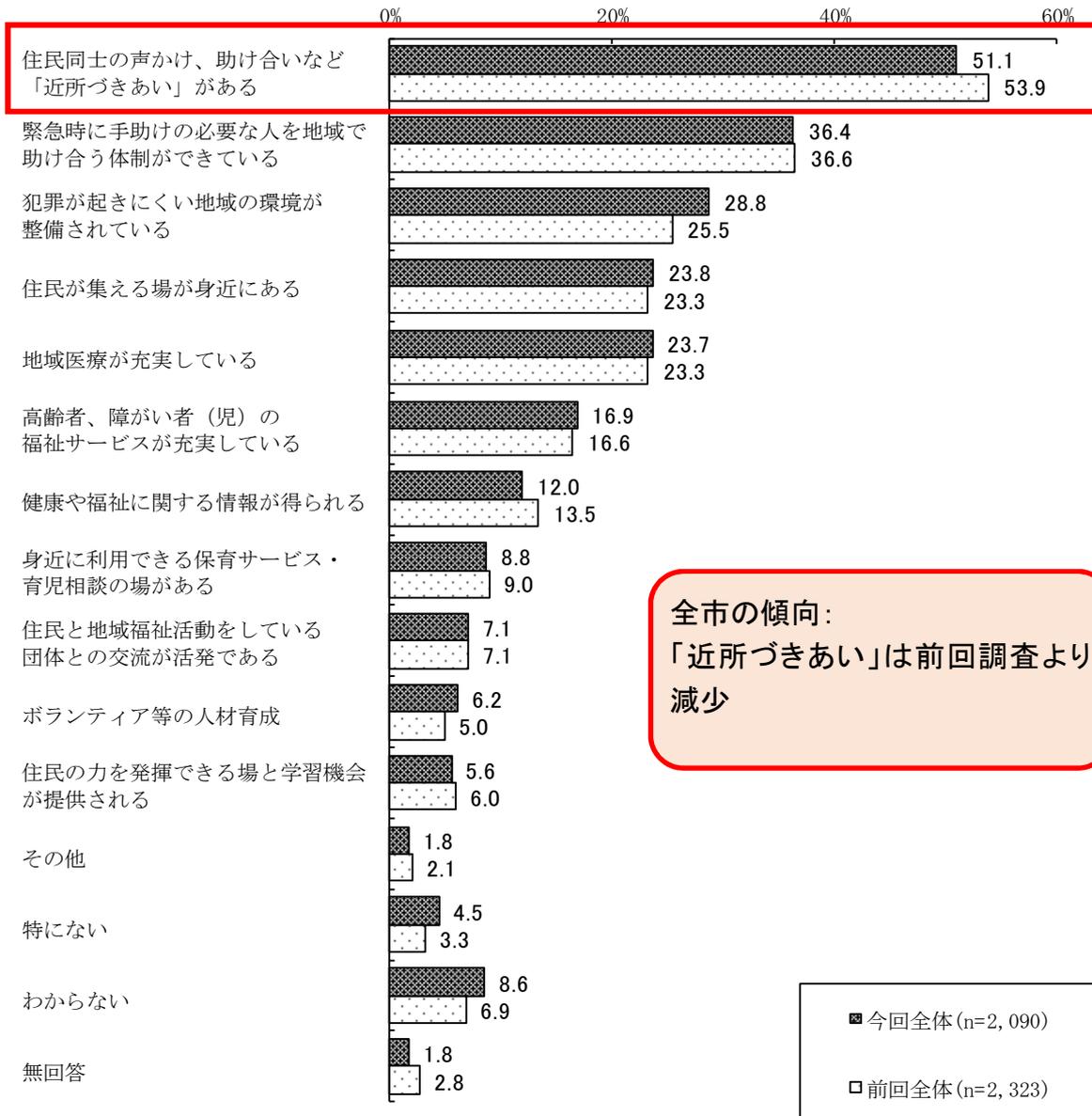
問14 あなたは、ボランティアや保健・福祉に関する地域活動の情報をどのような手段で得ることが多いですか。(〇は3つまで)



区の傾向：(全市の回答と比較した場合)

区役所だよりが 36.7%で 10.7%多い
 社協だよりも 13.9%で 8.1%多い
 テレビ・ラジオ、新聞・雑誌が約 4%少ない
 わからない人が 11.9%で 4.9%多い

問 2 1 あなたの住む地域を、より住みやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

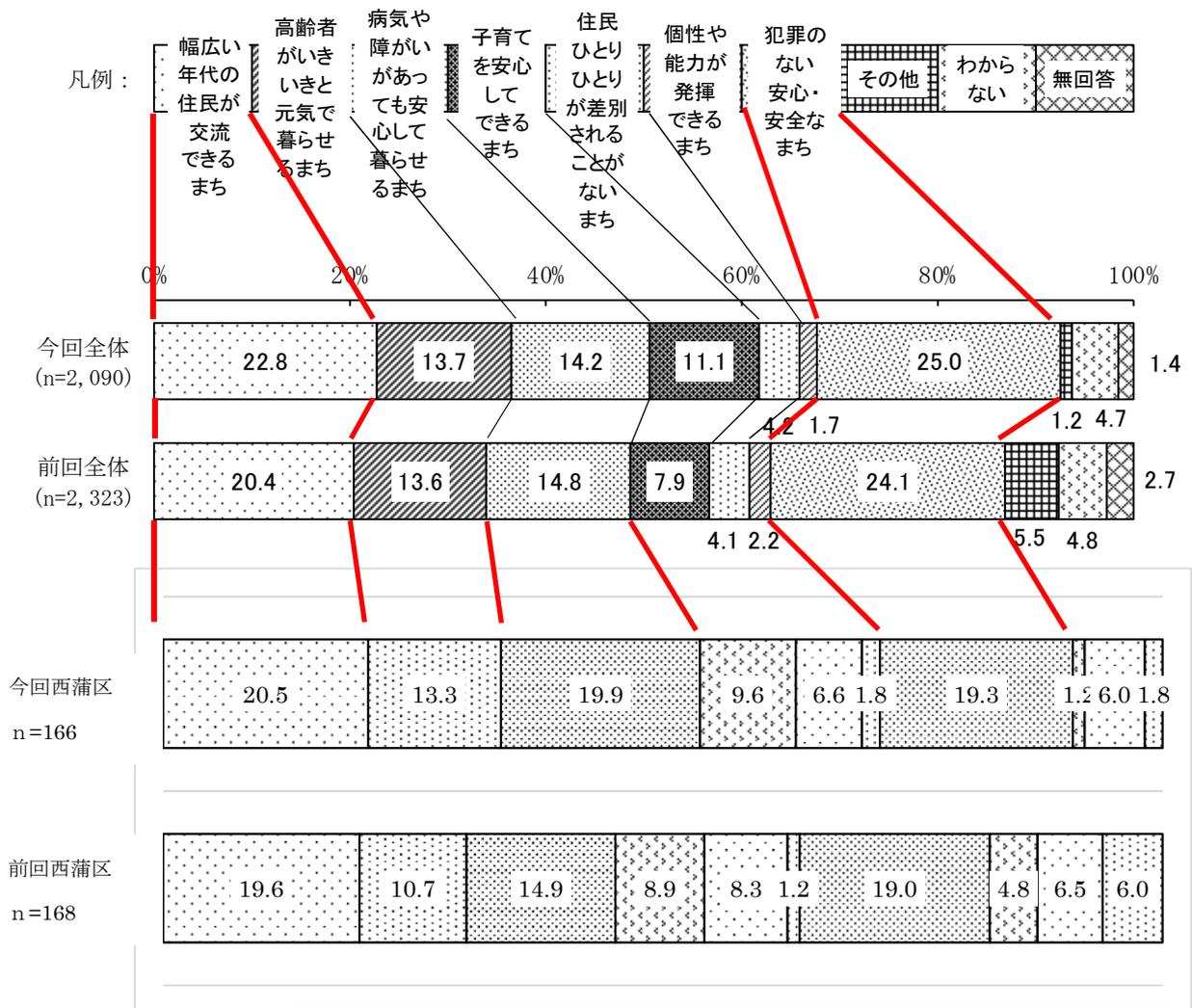


全市の傾向：
「近所づきあい」は前回調査より減少

区の傾向：(全市の回答と比較した場合)

- 緊急時に手助けの必要異なる人を地域で助け合う体制ができているが 28.9%で △7.5%
- 犯罪が起きにくい地域の環境が整備されているが 18.7%で △10.1%
- 住民が集える場所が身近にあるが 32.5%で 8.7%多い

問 2 2 あなたは、住む地域が今後どのような地域になれば住みやすいと思いますか。
(〇は1つだけ)



全市の傾向：「多世代交流」、「安心・安全」が多くを占めている

区の傾向：(全市の回答と比較した場合)

病気や障がいがあっても安心して暮らせるまちが 19.9%で 5.7%多い
= 自宅で暮らしたいと考える人が多い。

地域福祉計画の基本理念及び基本目標について

現計画

基本理念

みんなで創ろう だれもが 心豊かに暮らせる
福祉の都市（まち）『にいがた』

- ・市民、地域の団体、行政機関を含む「みんな」の力で創造
- ・現在の新潟市民も、未来の新潟市民も、年齢や、障がいの有無に関わらず「だれも」が対象
- ・安心して「心豊かに暮らせる」ような価値を持った
- ・目指す姿として「まち」「にいがた」と記載し、やわらかさ、オリジナリティを表現

基本目標

- 1 私たちが支えあい、助け合う地域づくり
・市民が主体となって「支えあい」「助け合い」に取り組む地域を作る
- 2 安心・安全に暮らせる地域づくり
・市民・地域・行政・関係機関が連携し「安心・安全」に取り組む地域を作る
- 3 健やかでいきいきと暮らせる地域づくり
・医療や介護になるべく頼らず「いきいきと」暮らせる理想に向けて取り組む地域を作る
- 4 みんなで暮らしを支える情報の共有とネットワークづくり
・必要な時に「情報を共有」し、困ったときに相談できるよう「ネットワーク」を構成する人材・組織を作る

※地域福祉計画(本冊)12、13 ページ参照

現計画の課題

- 地域課題や複雑化・多様化するニーズの把握
- 地域における連携強化・ネットワークの拡大
- 孤立している人、サービスを利用できない人への対応
- 地域の福祉人材の確保・育成

新たに加える視点・考え方

- 「地域共生社会」の実現
- 生活困窮者自立支援の視点
- 成年後見制度の利用促進の視点
- 再犯防止の視点
- ・ 多様性を尊重し、国籍、性別、年齢、障がいの有無など個人の属性により差別されず、誰もが地域の一員として包摂される社会
→「ONE TEAM」
- ・ 本人を中心とし、本人の意思決定を支援・尊重
- ・ 「支え手」「受け手」といった関係を超え、お互いの個性や能力を活かす新たな取り組み
- ・ 高齢者、こども、障がいなど制度の縦割りを超え「我が事」「丸ごと」受け止め、横の連携・つながりを大切に、チームで役割を分担して支援する体制をつくる
- ・ 生涯現役・健康でより長く活躍できる社会

次期計画

基本理念(案)

みんなで創ろう だれもがつながり支えあい
自分らしくいきいきと暮らせる
福祉の都市（まち）『にいがた』

現計画の理念を踏襲しながら、引き続き取り組むため、さらに地域共生社会の実現を目指し、「つながり」「支えあい」やネットワークを強化する視点、お互いの個性や多様性が尊重されるという視点を強調するために加えたもの。

※新潟市における地域共生社会のイメージ資料4参照

基本目標(案)

- 1 認めあい、支えあう意識を持った地域づくり
・地域で困りごとのある人に気づく、見つける
・お互いを認め尊重する、新たな気づきや意識の醸成
- 2 つながり協働する地域づくり
・気づいた困りごとのある人を支援機関につなぐ
・関係者・機関で情報共有し、連携・協働して支援する
・ネットワークの拡大が新たな気づきや資源の創造へ
- 3 だれもが活躍できる地域づくり
・多様な主体が連携し、だれもがそれぞれの個性や強みを生かして地域の一員として活躍する
- 4 健康で安心・安全に暮らせる地域づくり
・気づき、つながり、活躍を続けるための土台として、地域住民が健康に生活できること、安心・安全な地域を作ることが不可欠

第2章 基本理念・基本目標

西蒲区の地域福祉を推進するため、計画の「基本理念」と「基本目標」を定めました。

1 基本理念

地域で支えあい、みんなが健康で安心して暮らせるまちづくり

2 基本目標

基本目標 1

私たちが支えあい、助けあうまちづくり

基本目標 2

安心・安全に暮らせるまちづくり

基本目標 3

健やかでいきいきと暮らせるまちづくり

基本目標 4

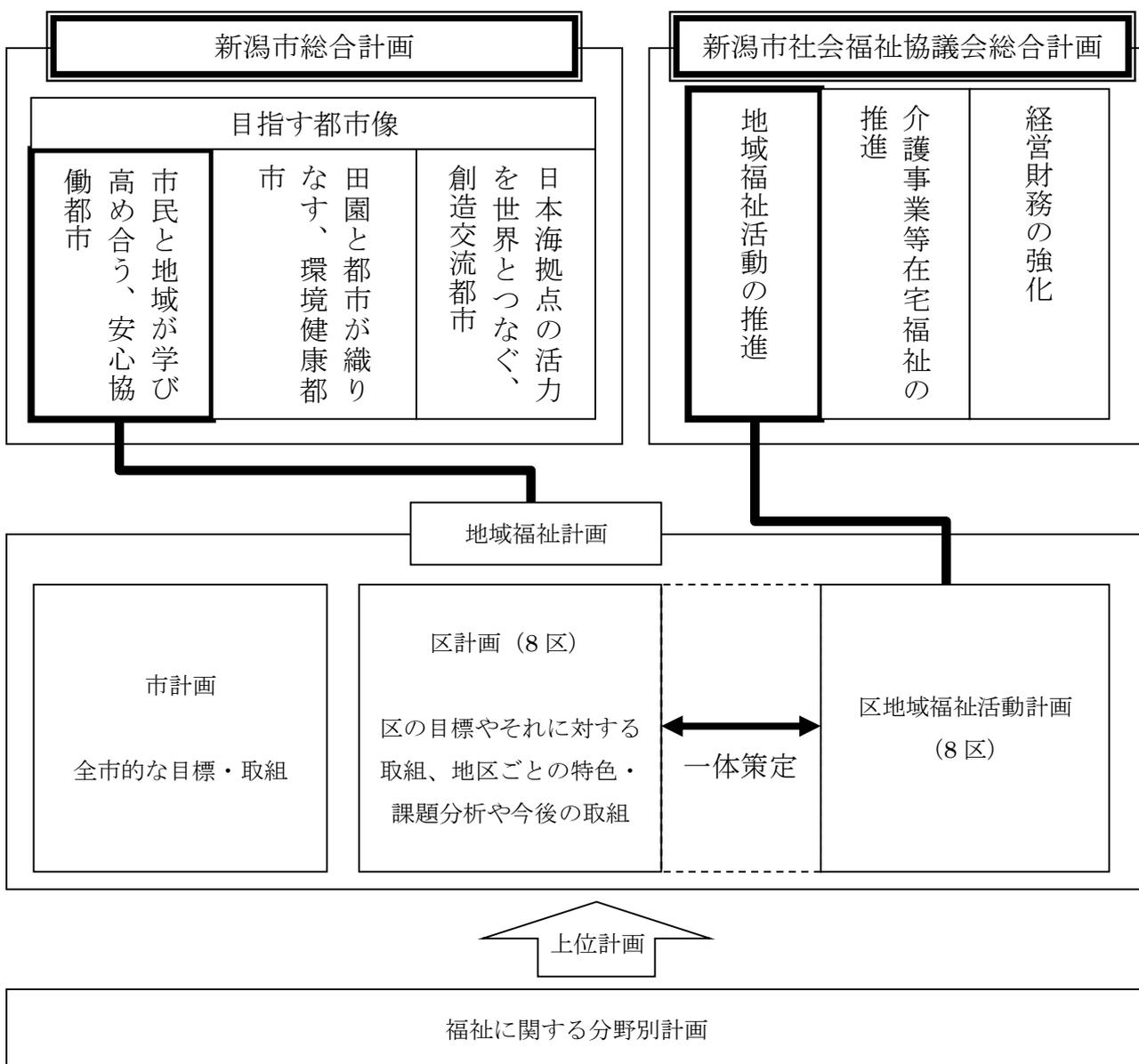
先人を敬い、次代を担う子どもたちを支えるまちづくり

(5) 地域福祉活動計画との関係

地域福祉活動計画は、地域福祉の推進を目的として、社会福祉協議会の呼びかけにより、住民・地域において社会福祉に関する活動を行う者・社会福祉を目的とする事業を経営するものが相互に協力して策定する民間の活動・行動計画です。

地域福祉活動計画は本計画及び各区計画の理念・目標等を共有し互いが地域福祉の推進に向けて、補完・補強し合う関係にあるもので、各区計画と一体的に策定するものです。

<他計画との関係性（イメージ）>



現計画

基本理念

地域で支えあい、みんなが健康で
安心して暮らせるまちづくり

・だれもが住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように、お互いに助け合い、支え合う仕組みをつくり、健康で安心して暮らせるまちづくりを目指します。

基本目標

1 私たちが支えあい、助け合うまちづくり

- ・住民のふれあいを推進し、お互いに助け合えるような地域づくりに努めます。
- ・地域の人に集まる場や機会を作るよう行動します。

2 安心・安全に暮らせるまちづくり

- ・防災・防犯・交通安全など地域の安心・安全確保に努めます
- ・地域の問題について柔軟に対応・相談できる拠点づくりを目指します

3 健やかでいきいきと暮らせるまちづくり

- ・健康に生き生きと暮らせる地域を目指します
- ・医療機関や行政と連携し、地域医療の向上を目指します。

4 先人を敬い、次代を担う子供たちを支えるまちづくり

- ・高齢者の福祉の増進を図ります。
- ・子供たちや大人たちが過ごしやすい環境づくりを行います。

※地域福祉計画(本冊)11 ページ参照

現計画の課題

- 地域課題や複雑化・多様化するニーズの把握
- 地域における連携強化・ネットワークの拡大
- 孤立している人、サービスを利用できない人への対応
- 地域の福祉人材の確保・育成

新たに加える視点・考え方

- 「地域共生社会」の実現
- 生活困窮者自立支援の視点
- 成年後見制度の利用促進の視点
- 再犯防止の視点
- ・ 多様性を尊重し、国籍、性別、年齢、障がいの有無など個人の属性により差別されず、誰もが地域の一員として包摂される社会
→「ONE TEAM」
- ・ 本人を中心とし、本人の意思決定を支援・尊重
- ・ 「支え手」「受け手」といった関係を超え、お互いの個性や能力を活かす新たな取り組み
- ・ 高齢者、こども、障がいなど制度の縦割りを超え「我が事」「丸ごと」受け止め、横の連携・つながりを大切に、チームで役割を分担して支援する体制をつくる
- ・ 生涯現役・健康でより長く活躍できる社会

次期計画

基本理念(案)

つながり支えあい、みんなが健康で
安心して暮らせるまちづくり

現計画の理念を踏襲しながら、引き続き取り組むため、さらに地域共生社会の実現を目指し、「つながり」「支えあい」やネットワークを強化する視点、お互いの個性や多様性が尊重されるという視点を強調するために加えたもの。

基本目標(案)

1 認めあい、支えあい、助けあうまちづくり

- ・地域で困りごとのある人に気づく、見つける
- ・お互いを認め尊重する、新たな気づきや意識の醸成

2 安心・安全に暮らせるまちづくり

- ・気づいた困りごとのある人を支援機関につなぐ
- ・関係者・機関で情報共有し、連携・協働して支援する
- ・ネットワークの拡大が新たな気づきや資源の創造へ

3 健やかでいきいきと暮らせるまちづくり

- ・多様な主体が連携し、だれもがそれぞれの個性や強みを生かして地域の一員として活躍する

4 先人を敬い、次代を担う子どもたちを支えるまちづくり

- ・制度の縦割りを超え高齢者から子どもまで丸ごと受け止め支援する体制をつくる